

NEWS

from
MIYAGI PREFECTURAL
ARCHIVES

Vol. 23

宮城県公文書館だより

第 23 号

● 公文書館移転・

オープン

● 公文書レポート

昭和15年の運動会

● トリビアの泉

電信柱が立っていた

● 寄贈図書のご紹介

● 収蔵状況

● お知らせ

宮城県公文書館移動展



資料紹介 宮城郡根白石村地図 明治38年 (部分)

新たに移転・オープンした公文書館は仙台市泉区紫山(宮城県図書館内)にあります。近年開発された仙台市のベッドタウン(泉パークタウン)の中に位置し、近隣にはアウトレットモールやホテル等があります。自然に囲まれつつも、とても賑わいを見せる一画です。

およそ100年前、泉区紫山は根白石村の村はずれに位置していました。そもそも「紫山」という地名も「村はずれ=村の先っぽ=村崎」からきています。公文書館左上に「村崎」という集落名が確認できます。

公文書館移転・オープン

～泉区紫山（県図書館内）へ～

宮城県公文書館長 草刈恭

宮城県公文書館は、本年4月から、仙台市泉区紫山の宮城県図書館の建物へ移転し、オープンいたしました。

昨年は、図書館での工事に加え、引っ越し作業のため、宮城野区榴岡にあった旧公文書館を10月から閉館し、図書館、公文書館のご利用の皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

新しい公文書館の閲覧室、事務室は、県図書館2階の西端にあります。階下には、図書館の倉庫であったスペースに、公文書の保管のための書庫を新設し、2階の閲覧室とをエレベーターで結びました。

新設した書庫は、貴重な公文書を将来にわたって十全に保管できるよう、公文書に最適な環境である温度（約22℃）、湿度（約55%）を空調で一定に保ち、床・壁・天井には調湿機能を有する木質系の部材を使用しました。また、火災の発生に備え、ガス消火設備を設けてあります。

仙台市の中心部からは少し離れましたが、素晴らしい環境に恵まれた新しい公文書館をどうぞご利用ください。県図書館にお出での際にも、2階の公文書館にお寄りいただければ幸いです。ご来館をお待ち申し上げます。

最後になりましたが、震災からの復興に向けてご多忙の中、新改築、移転にご尽力くださいました関係の皆様方に心から御礼申し上げます。

利用案内

- 1 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 2 休館日 日曜日、月曜日、国民の休日（祝日が土曜日の場合は開館します。祝日が月曜日の場合は、その翌日以降の直近の休日でない日も休館となります。）

3 交通のご案内

- ◆ 一般交通機関の場合 宮城交通バスをご利用ください。〔宮城県図書館前〕が最寄りのバス停です。

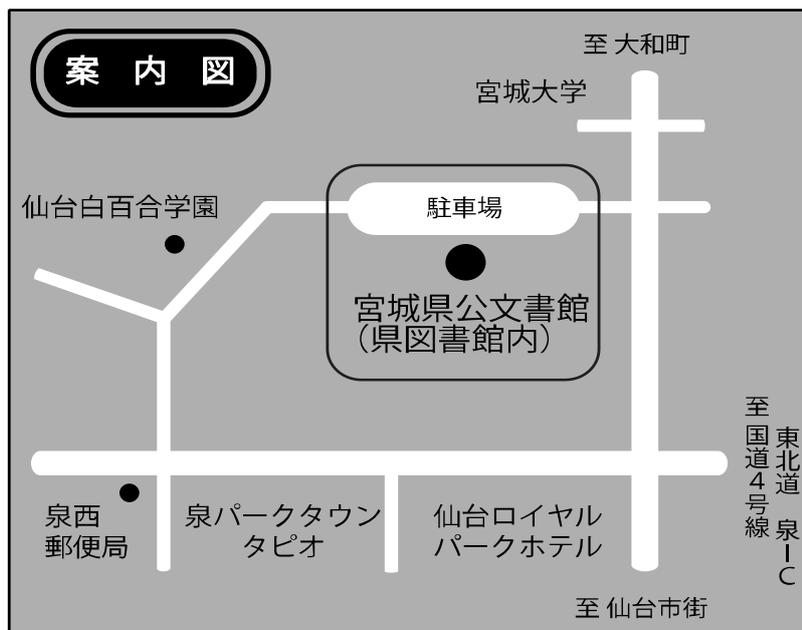
【地下鉄泉中央駅から】

- 桂・高森経由宮城大学・工業団地経由泉パークタウン車庫前行・テクノヒルズ東行き
- 将監殿経由宮城大学・工業団地経由泉パークタウン車庫前行き
- 寺岡・紫山経由宮城大学行き（宮城大学を経由しない場合は、〔白百合学園前〕が最寄りです。）

【仙台駅から】

- 宮城大学・仙台保健福祉専門学校行き
- 県庁市役所泉アウトレット経由または上杉通泉アウトレット経由宮城大学行き

- ◆ 自家用車の場合 泉パークタウン内の仙台ロイヤルパークホテル北側、宮城大学の南側になります。



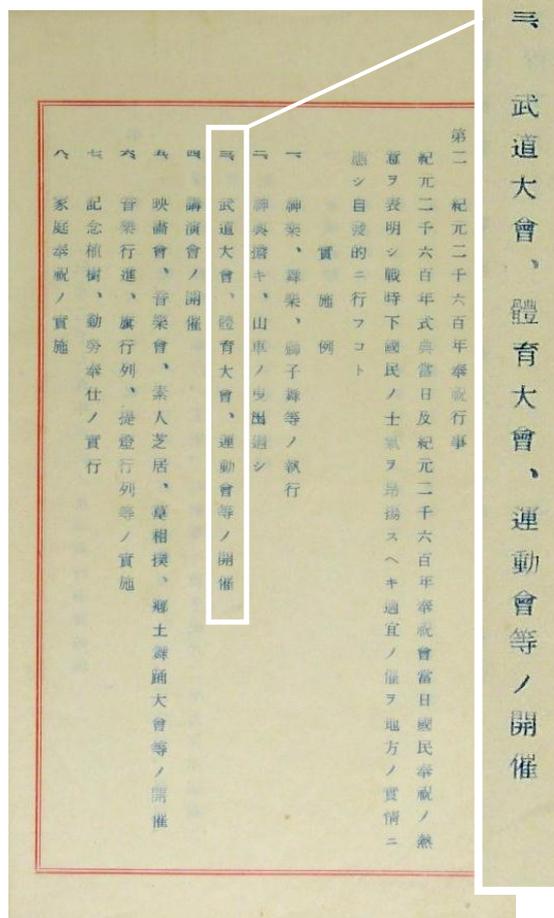
公文書レポート 昭和15年の運動会

専門調査員 鈴木琢郎

万国旗が頭上を飾り、今にも走り出したくなるあのテーマ曲が鳴り響く。お昼のお弁当は、おにぎりに唐揚げ、それと玉子焼きといったところでしょうか。今も昔も運動会は楽しい行事の一つです。運動会の時だけ主役になれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

明治7年3月21日、築地の海軍兵学寮で行われた「競技遊戯会」が日本で行われた運動会第一号と言われています。様々な競技が行われ、種目ごとにステッキやナイフといった景品も出たようです。この時から現在に至るまで、全国各地で様々な運動会が行われてきました。

今回はこのような運動会の歴史の中でも、特に昭和15年の運動会に注目したいと思います。昭和15年は既に日中戦争が始まり、翌年には太平洋戦争が開戦されますが、特に著名な歴史的な事件があった年ではありません。それではなぜ昭和15年か。この年は初代の神武天皇が即位してから丁度2600年目にあたる（とされた）メモリアルイヤーでした。この記念すべき年には関連する祝賀行事が多く行われています。政府主催のものは勿論、自治体や学校、企業等で様々な行事が行われましたが、この祝賀行事の中で最も開催例が多かったのが運動会です。



紀元二千六百年奉祝式及奉祝行事実施例
【S14-174「紀元二千六百年関係」】

どうして運動会の人気が高かったのでしょうか。政府は各地方や団体に、11月10日に皇居で行われる紀元二千六百年記念奉祝式と同次第の儀式を執り行うとともに、「国民奉祝の熱意を表明し戦時下国民の士気を昂揚すべき適宜の催しを地方の実情に応じ自発的に行うこと」を求めています。その実施例の第3番目に「武道大会、体育大会、運動会等の開催」があります。神楽や講演会等、実施例は様々ありましたが、第3番目の体育大会や運動会等が最も楽しそうな行事に思えます。

しかし、この理由を「楽しさ」だけに求めるのは誤りです。同じ昭和15年4月8日には、法律第105号として「国民体力法」が公布されています。この法律は体力検査を義務付けるなど、「国民体力の向上を図る」ことを目的としています。しかしこの「体力の向上」は健康のためではありません。この法律では現役兵ではない未成年者の「体力の向上」が図られています。つまり、戦争に必要とされる優秀な兵隊を作り上げるために、子供達の体力向上を図っているのです。やはりキーワードは「戦争」です。

さて、公文書館資料の中から、この時に開催された運動会の様子をうかがってみましょう。御嶽村（現在の気仙沼市本吉）では11月10日に「奉祝体育大会」が開催されました。この運動会は要項や委員会名簿、そしてプログラム等が残っており、その内容を詳しく知ることができます。注目されるのは競技種目です。プログラム28番目には、鉢の中にあるドジョウをスパイに見立て、これを捕まえて100m走る、その名も「スパイ検挙」があります。またプログラム3番には、同じ植民地名を記した札を拾った者同士が花嫁花婿に扮し、手を携えてゴールを目指す「大陸の花嫁競争」なるものまでありました。

現在でもこれらに似た競技はあるかもしれません。しかし「スパイ検挙」や「植民地」といった言葉を用いることはないでしょう。まさに「戦時下国民の士気を昂揚」させるような種目名です。しかし名前は別として、その競技内容にはユーモアを感じます。ヌルヌルするドジョウを懸命につかみ、それでも手元からドジョウが逃げ出し、それをあわてて捕まえる選手、またそれを見て笑いと歓声上がる観客席。「大陸の花嫁競争」では恥じらいながら手を繋ぎ走るカップルと、それを「ヨーヨー」と冷やかす観衆の姿が目につかびます。翌16年に県の命令により御嶽村が提出した奉祝行事調査書には次のような文章があります。

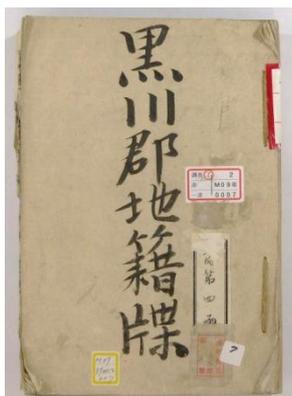
御嶽村体育大会のプログラム 【S14-174「紀元二千六百年関係」】

本年最初の催たり。其成績は各方面の注目する処たりしが、敢然予期以上の成績を得たるは、時局下、銃後村民の娯楽と体位向上に一大光明を放ちたるものとして、各方面の視聴を集む。当時出場したる村民は勿論、出場せず観覧しありたる村民も異口同音に来年こそはの意気凄く、開催第一回にして村の大なる行事として算せらるるに至り、本年度の開催こそ其盛会が予想せられ、二千六百年奉祝行事として意義殊に深からしめたり。

紀元二千六百年は政府・皇室にとっては「万世一系」を象徴する記念すべきものでした。また「銃後村民」の「体位向上」とは、まさに優秀な軍人を育成する地域レベルでの下支えということです。しかし「体力向上」よりも先に「娯楽」を挙げ、これが「一大光明を放」った、というこの文章からは、笑いと歓声につつまれた「楽しい運動会」の姿が想像されます。運動会に参加した一人一人にとっては、紀元二千六百年記念の大義や軍事教練という開催目的以上に、「娯楽」としての「楽しい運動会」だったのでないでしょうか。

トリビアの泉 ～すばらしき宮城の雑学～

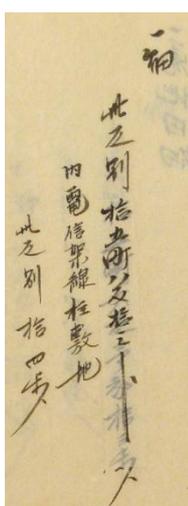
電信柱が立っていた



明治時代初期の村の風景を思い描いて下さい。そこには何があったでしょう。当館所蔵の『地籍牒』は、意外と難しいこの問いに答える材料になります。地租改正とも関わって各地の地籍の把握を必要とした明治政府は、明治8(1875)年3月から東京を除く全府県で地籍調査を開始しました(M7-0056:以下、括弧内の記号はすべて、当館の所蔵資料番号)。『地籍牒』は、その結果を村ごとにまとめたもので、当館には調査当時宮城県に属していた刈田・柴田・伊具・亘理・名取・宮城・黒川・加美・志田・遠田・桃生・牡鹿各郡の分が残されています(M9-001~012)。村ごとの土地の種類と面積とが逐一記されたそれら

を繰っていると、たとえば温泉や塩田などそれぞれの地の特色を感じさせる地種に行き当たり、県内一周旅行をしている気分を味わえます。と同時に、明治8年時点の1つ1つの村の風景を思い描くこともできるわけです。

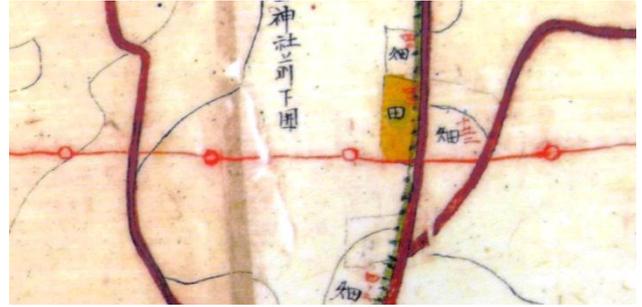
確かに、そこには宅地・道路・耕作地・寺社・墓地・山野・河川などがありました。が、これは冒頭の問いへの答えとしては、十分と言えません。というのも、少なくとも刈田・柴田・名取・宮城・黒川・志田・遠田各郡の村で生活していた人々の目には、電信柱とそれをつなぐ電線とが映っていたはずだからです。これらの郡の『地籍牒』には、「電信架線柱敷地」が記載されています(写真は、『黒川郡地籍牒』の同郡三ノ関村分より)。



電信技術は、安政元(1854)年に日本に伝えられました(『仙台市史』通史編6)。モールス信号による音信で「瞬間万里」をつなぐ「至緊至妙」の技術とされていました

(M6-0025)。架線は、明治5(1872)年9月に東京一京都間で完了し(M5-0019)、その後青森まで延長される過程で、明治7(1874)年9月に仙台に(M7-0031)、同12月には県下を通過して一関に到達しています(M7-0034)。県下で工事が行われる際には、妨害や見物に集まってくる子どもたちの怪

我に気を配るよう通達がなされました(M7-0045)。不安・期待・好奇心といった様々な感情をかきたてながら、新たな時代の風が宮城県にも吹き込んできたのです。『地籍牒』には、その痕跡が確かに刻まれています。なお、明治8年の地籍調査の中で作成された『地引図』にも、明治時代初期の村を「電信線」が縦断している様子を見ることができます〔写真中央部を電信柱(丸)とそれをつなぐ電線(直線)が横断：黒川郡三ノ関村の地引図(V-438)より〕。



寄贈図書のご紹介

平成24年8月から平成25年7月までに、関係機関より寄贈された図書の一部をご紹介します。

藤沢山日鑑 別巻 近侍者記録 一・二	藤沢市文書館
石川県史資料近世篇12 諸士系譜 五	石川県立図書館
富山県公文書館文書目録 歴史文書 第28集	富山県公文書館
青木久太郎家文書目録2	岐阜県歴史資料館
東金市台方 前嶋家文書目録2	千葉県文書館
三重県史資料叢書6 資料編 中世2 補遺I	三重県
三重県史資料叢書7 資料編 中世2 補遺II	〃
青森県史 資料編 考古2 縄文後期・晩期	青森県
愛知県史 資料編24 近代1 政治・行政1	愛知県
愛知県史 資料編31 近代8 流通・金融・交通	〃
愛知県史 別編 文化財3 彫刻	〃
福島県歴史資料館収蔵資料目録第44集 県内緒家寄託文書38	福島県歴史資料館
宇都宮孟綱日記 第8巻	秋田県公文書館
越後佐渡ヒストリア 文書館資料にみる新潟県の歴史	新潟県立文書館
茨城県立歴史館史料叢書16 否塞録 悔慚録 明志録	茨城県立歴史館
福井県文書館資料叢書9 福井藩士履歴1 あ～え	福井県文書館
埼玉県資料叢書16 栗橋関所史料五 御用留II 御関所日記	埼玉県立文書館
学校教材史料集 第9号 一授業に使うとちぎの史料一	栃木県立文書館
美しき東北の街並み 一鳥のまなざし 吉田初三郎の世界一	東北歴史博物館
東日本大震災記録誌 希望と笑顔が輝くまちへ	山元町
和田家資料「内留」 弘化五年・嘉永元年	角田市郷土資料館
仙台市史 通史編9 現代2	仙台市博物館
東京市史稿 産業篇第54	東京都公文書館

長野県立歴史館収蔵文書目録 1 2 小県郡伊勢山村蚕種蚕龍堂文書 (1-6)
新八王子市史 資料編 1 原始・古代
新八王子市史 資料編 3 近世 1

長野県立歴史館
八王子市
〃

このほか、たくさんの関係機関から寄贈がありました。ありがとうございました。

収蔵状況

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

	公 文 書					絵図面	行政資料	合計
	明治期	大正期	昭和期	平成期	小計			
収蔵数	3,671	1,692	25,472	4,912	35,747	1,565	8,168	45,480

お知らせ 県庁移動展

コレラ大流行

平成 25 年 11 月 18 日 (月) ~ 12 月 20 日 (金)

宮城県庁 18 階 県政広報展示室

予防・治療が確立されるまで多くの人々の命を奪ったコレラ。人々はコレラにどう立ち向かったのか、巨大な供養碑や当時の新聞など様々な資料から探っていきます。



宮城県公文書館だより 第 23 号

2013(平成 25)年 9 月 1 日 発行

編集・発行者 宮城県公文書館

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山 1-1-1

電話番号 022(341)3231 FAX 022(341)3233

E-Mail koubun@pref.miyagi.jp

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/>